

多摩市青少年問題協議会
令和元年度 第1回青少年健全育成委員会 議事録

【書記】内山

- ◆日 時 令和元年6月13日(木)午後7時～午後9時
- ◆場 所 市役所301・302会議室
- ◆欠席委員 川井委員、榊委員(2名)
- ◆議 題
 - 1 役員(議長・副議長・書記)の選出
 - 2 令和元年度青少年健全育成委員会の進め方(案)について
 - 3 情報交換・その他

1 役員(議長・副議長・書記)の選出

議 長 水野 裕司 委員
副議長 斎藤 幸枝 委員
書 記 内山 綾 委員

2 令和元年度青少年健全育成委員会の進め方(案)について

<議長> 今年度の健全育成委員会の検討テーマは昨年度の健全育成委員会において次年度のテーマとして提案された「ともに学び、楽しむ場を地域でつくるために」としたい、

<異議なし>

<議長> それでは事務局より提案された今年度の健全育成委員会の検討テーマは「ともに学び、楽しむ場を地域でつくるために」とすることで承認されました。

<議長> 地域の中において委員の皆さんはそれぞれの立場で活動をしていると思いますが、このテーマに沿って皆さんの立場からそれぞれ自由に意見をいただきたい。

- 最近子どもが巻き込まれる事件や事故が発生し、マスコミに報道されている。子どもの命を大切にするという前提を踏まえた議論があってよいのでは。
楽しむ場を作るにはまず大人が楽しむ場をつくることで子どもが楽しむことができる。
- 子どもの権利条約について学習することは重要である。大人と子供と一緒に児童虐

待や子どもの体罰について学習するのもよい。

- 警察では職場体験、社会科見学等で子どもたちとの学びの場をつくっている
- 保健所では子供たちと接触する場は少ない。職場体験や中学生の性教育など学びの場はあるが、楽しむ場はほとんどないのが現状である。
- 児童相談所は相談機関であるので、地域の方と一緒にという機能は少ない。親子を集めてのグループ指導、また親子関係の再構築を目指したデイキャンプを行ったりしている。
- 中学校では放課後においては部活の活動がある。休日、長期休暇では、児童館、公民館を利用する子も多い。またボランティア活動で、地域のどんど焼き、夏祭り等地域の行事に参加したりしている。

中学生のボランティアが参加しやすいよう工夫があるとよいのでは。

- 議会では子どもたちに議会報告会に参加してもらったことがある。去年は子ども議会体験を夏休みに行った。40人ほどの参加があり、議会について学びながら、楽しむことができたという意見もあり、好評であった。

地域と子どもたちを繋ぐ場として放課後子ども教室がその一つとして考えられる。

- まず地域でみんなが楽しめる場を設定し、子ども世代、親世代、祖父母世代の3世代が一緒になって学ぶことのできる場を作れば良いのでは。

子どもからお年寄りまで一緒に楽しめるボッチャは良いのでは。

- 保護司は地域で居場所のない子どもたちと接している。早い子では小学生低学年から家庭、学校、地域で自分をうまく表現できなかったという体験をしている。社会の中で子どもたちがどのように立ち直れる場をつくるかが大きなテーマである。社会からはじかれた子どもたちを夏祭りやどんど焼きなど地域の行事に引っ張りこむことが必要では。

- 民生委員は各小学校で地区連絡会を行っている。その中で先生から外国籍のお子さんが増え、またその保護者も増えており、地域の中で孤立しているのが現状であるという話を聞いた。地域の中にこうした外国籍の人を引き込むことができればと考える。

- スポーツ推進委員は小さい子からお年寄りまで参加できるニュースポーツを推進している。スポーツは誰もが一緒に参加することができるので、今回のテーマに適した手法である。今年教育委員会ではボッチャを多摩市で積極的に推進しようとしている。

- 中学校のPTAでは青少協の行事に参加をさせていただき、そこで地域の方と交流することは良いことだと思う。働く親の立場でいうと地域の行事に参加したい気持ちはあるが、仕事も忙しく、いかに上手くまわしていくかが課題となっているのが現状である。

人員が減り、負担が増えると純粋に楽しむことができなくなることも課題である。

- 防犯協会では毎年中学生に作文を書いてもらい、去年は振り込め詐欺について作文を書いてもらった。地域でパトロールをする時に子どもたちに参加してもらうこともある。

- 学校では働き方改革が重要な課題であり、時間外を60時間以内に収めることがガイドラインで示されている。これからは地域の中へ学校が出ていくことが難しくなってくる。地域に学校が出ていくことと働き方改革を進めることをどのようなバランスで行っていくかが課題である。
子どもたちが自分で考え、作り上げていく力を身に着けることが重要である。
大人が楽しい場を提供するだけでなく、子どもが自分で考え、作り上げていくことが楽しさにつながっていくのではないかと。
- 貝取地区委員会では中学生がリーダーとなって自分で企画し、小学生を楽しませるというマルちゃんキャンプを長く続けている。豊ヶ丘地区との共催でニュースポーツ大会を実施しており、小、中学生のボランティアを募って、大人と一緒に運営を行っている。
- スマホや携帯の普及もあり、社会全体で孤立化が進む傾向にある。また一方少子高齢化により、人材不足、後継者不足が深刻な問題となっている。地域の団体の活動は危機を迎えているのではないかと。こうした状況のなかで、あえてみんなで一緒に学び、一緒に楽しむということを検討していくことは今回のテーマのひとつの目的ではないかと思う。

<議長>各委員が様々な立場から意見をいただきました。楽しむというには遊びの要素がなければ楽しめないという考えもあるし、達成感がないと楽しめないという考え方もある。次回には「ともに楽しむ」とか「ともに学ぶ」というのはどういうことなのかということに共通のイメージを持てるようにすることで提言に向かって進むことができるのでは。次回の会議までに皆さんがそれぞれ考えてきていただきたい。

3 情報交換・その他

(関係行政庁の委員より近況報告)